



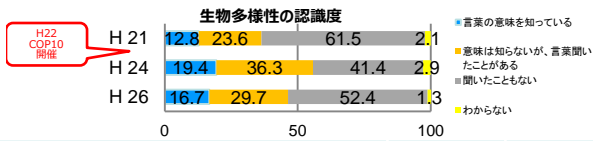
## 生物多様性のために、今、私たちができること ～食べてみよう・育ててみよう・種を守ろう～

グループ名：アースバランスボール（産業と生物多様性）  
メンバー：中野 真理子・吉倉 広二・宮本 仁一  
チューター：窪田 光宏・後藤 尚弘・藤井 芳一・山崎 真理子

### 現状の把握

平成26年9月 内閣府政府広報室調査より

- 生物多様性の認識度が低い。(50%以上の人が知らない)
- 「自然の恵み」＝「生態系サービスの価値」に対する関心が希薄。



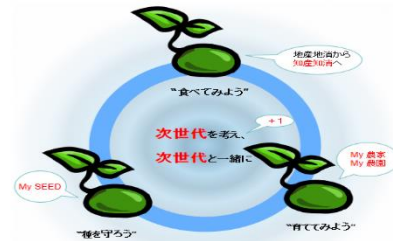
生態系サービスの価値に関する意識	平成24年	平成26年
動物・植物など生き物の生息・生育地としての働き	65.0%	56.0%
魚やキノコなどの食料を供給する働き	48.1%	40.0%

- 生物多様性の危機は私たちの暮らしや産業の様々な危機につながっている。
  - 現代農業における生物多様性の損失。
  - 農家が栽培できる在来種・固定種の種類が激減している。
- ⇒ 多様な作物種は未来へ残すべき貴重な遺伝資源である。

### 2035年に向けての提言の概要

あいち♥自然のめぐみ♠いただきますプロジェクト  
(通称：あいべじ)

「食」と「農」を通し、楽しみながら生物多様性への意識を高める  
「あいちの伝統野菜」を利用した“3 + 1 活動”を提言



### 提案の内容

図 各段階に応じた取組み事例



「たなかカフェ」  
種や出来た作物を持ち寄り  
タネの交換をしたり、種採りの  
講習会をする

「週末、子供と一緒に  
泥んこになろう」  
伝統野菜とともに、親子で過ごす、  
農業体験

「子どもたちによる  
“あいち野菜”の復活」  
消えゆく寸前の種の復活活動

「伝統野菜スイーツの開発」  
〇〇高校と大手コンビニとのコラボで  
あいち伝統野菜スイーツの商品開発

イラスト出典：http://www.irasutoya.com/ http://www.printout.jp/clipart/index.html

### 提案実現のための具体的な取り組み (アクションプラン) と実現可能性



### 波及効果



- 全国への伝統野菜の展開（「あいちモデル」の拡大）
- 食材の価値や食べることの楽しさが伝わり、食品ロスの削減に
- 付加価値の高いブランド産品に育て、マーケットを開拓して地域振興
- 東京オリンピックで「おもてなし食材」として伝統野菜が提供 ⇒ 地域観光客がさらに増加
- 新規就農者の増加、耕作放棄地の減少
- 小さなシードバンクのネットワーク化（自慢の種を分かち合う場）

イラスト出典：http://www.printout.jp/clipart/